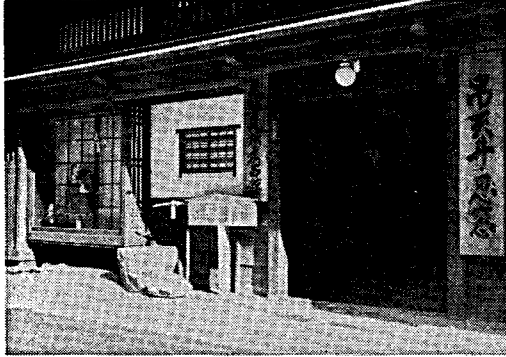


岐阜の博物館

〒483 羽島郡川島町
エーザイ工園
内藤記念くすり資料館内
岐阜県博物館協会
責任者 吉田幸平
振替 名古屋 70106



(建物そのものが貴重な飛驒民族考古館)



(考古館内の展示室)

館・園紹介 No 25

飛驒民族考古館

〒506 高山市上三之町 82

TEL<0577> 32 - 1980

御典医のすまい そのまゝが博物館

坂本重次郎館長は、展示品の石器をとりあげ、大昔からこの飛驒の土地にすみつき、すまってきた人々を飛驒民族と呼びたいと熱っぽく語られる。この土地をこよなく愛されている証拠である。高山城主金森氏の御典医、上田玄泰のすまいをゆずり受けて、開かずの蔵といわれていた土蔵を改良し、本宅と共に私設の博物館として一般公開したもの。建物はほとんど修理が加えられないまゝ江戸時代の様子を後世に伝えており、湯殿、井戸、本座敷のからくり付「つり天井」、しのび窓、中庭から官川へ通じる抜け穴など、昔の御典医の生活がしのばれ、残された医療器具を中心に、御典医そのものについても、もっと知りたいと思って見学したのだった。

当館の目玉展示物は、何とんでも「縄文時代のヒスイ指輪」と称せられている大野郡丹生川村旗鉢出土の遺物であろう。それから、同じ



〔ヒスイ指輪；縄文時代〕

く縄文時代の土器だといわれる火炎つり手土器、県史にも紹介されている縄文の異形石器等々、考古学上貴重なものが数多く展示されている。その他、「原本斐太後風土記全巻（富田礼彦作）や飛驒の名工、石神梅之丞作『黒牛』はじめ書絵・古美術品も展示されている。

小京都高山、古都高山……その飛驒民族が、山国に展開してきた歴史の生々しい足跡をこそ、当館で大系づけられるようなご活躍を期待しながら、ひとりでも多くの方々が当館を見学され、飛驒民族への関心を高められることを願いたい。

(宮崎)

大学生(博物館学専攻) 美濃羽 寿

青年の役割りは？

以上は、私的な博物館(学)への抱負であるが言わば公的な意味での“青年という世代として、の役割についても少し触れておきたい。

私達は今、革命等による精神的圧迫も、直接的な戦争による危機感も、今日明日に食する米の欠乏感も、心配することは殆んどない社会に暮らしている。あまつさえ私達は、多少の工夫や努力さえ厭わなければ、少くとも日常生活に関する限り、必要な消費物資を購うことにさえ、豊富に恵まれている。そのことを私は、素直に、幸福な事だと喜びたい。そして出来れば凡ゆる面で、現在のこの生活を失ったり、退歩したりしたくないと思う。

こんな私の考え方に対して“物質文化への愛着心は、資本主義の害毒に晒された者の考え方だ。”と主張し、進歩的、革新的と自称する、少なからぬ人々が居ることを、私は知らない訳ではないし、かく言ひ私自身、つい先年迄社会主義経済学を学ぶ一人の学生として、そのように考えていた。しかし世界の数十ヶ国を歩いた今、私は自分の考えが幼稚にすぎたことを認めない訳には行かなくなった。より便利で、より快適で、より楽しい日常生活を望むことは、イデオロギーや、社会体制を越えた人間として共通の願いであり、それを、“保守・革新。だとか”“左・右。などという便宜的な方法で片付けられはしないからである。革新的であること、非資本主義的であることのみが、良識ある知識として採るべき、唯一の態度であるかの如き考え方を、私はもうそろそろ改めた方がよいと思うのだ。

ヒューマンイズムの再確認を

日本だけについてみても、極端に狭い国土に極端に多過ぎる人口を有する我々が、少しでも日常生活の向上を計らんとするから、原材料を

他の国々に依存し、それに、集約的な労働なり、卓越した技術なり、卓抜なるアイデアなりを附加することで、利益を稼ぎ、それによって、生活向上を実現する以外に方法は考えられない筈である。仮に進歩的、革新的と称する人々が国の主導権を得ても、その方法は変わるとは考えられない。もし変わるとするなら私達の生活は大きな退歩を余儀なくされるだろう。私は、少くともそれを好まない。私は共産圏の国々の有する、あの暗さと、街を歩くだけで気が滅入り、そんな生活の重さを好まないし、未開発国(発展途上国)の貧しさも嫌いである。がしかし、断じて私は今の日本の社会のあり方が、このままで良いと主張するつもりもない。それは社会全体としての富や利益の配分が、ひどく偏っている点を見逃してはならないからだ。(それを許しているのは結局我々自身の責任かも知れないのだが……)が、そのことと、物質的な富かさ、便利さと混同視してはならない、自ずから性質が異なるからである。私達は多くの場合エゴイズムという色眼鏡も手伝って、かなり無理な混同を続けて来た様に思ひ。物質面での豊かさや、充足への願望が、あたかも悪徳の如く見えるのは、実は私達自身が努力を怠って、それに関り合う方法を間違えたからであり、公害をはじめとする社会悪の横行が目立ちだしたのも、私達が選択を誤り、エコノミズムや、コマージュリズムを、ヒューマンイズムに優先させて、殆んど一方的に採用し続けて来たのと、そうせざるを得なかったせいである。その結果生じた、種々の富の蓄積が、現在の我々が有する“文明化・近代化”した社会の基盤になっているのは、皮肉という他ないが仕方がない、私が社会教育の将来への選択の基準にヒューマンイズムの再確認を挙げるのはそのせいである。

社会教育の場てこそ……

現在の日本を、私が否定的に考えたくない他の理由は、私達は今、生産活動を離れた場所で、社会教育などという、抽象的で、非生産的な行為について、時間を割いて考えることを（無論十分ではないにしろ）許し得るほどに余裕を有する社会生活を営んでいるという点である。これは博物館業務を含めた全ての社会活動全般についていえることで、全く生活の余裕というもののない社会に、^(インフляция)非視覚的な抽象的な思考や試行が成り立つ筈がない。要するに、より近代的、より文化的な社会を有する国ほど、その充実の度合いが進んでいるという実際の体験に基づいている。物質的、経済的余力を持ち始めた日本人としての我々は、少くとも今後、その余力の中から文化面へのアプローチに、他の国々よりアドヴァンテージを有して然るべきと思うのである。

いくらか肯定的に、日本の社会を考えている私は、「青年という世代」に属する一人として、実は少なからぬ「当惑」を感じている事をも正直に告白しなければならない。

何故なら、今の社会の有する物質的な豊かさ

も、経済的な蓄積も、実は我々の世代の創造ではなく、全て、ひっくりめた「前の世代」が、敗戦なる絶望的な状態の中から、殆んど奇跡に近い努力と幸運とで勝ち得たものに他ならず、我々は、言うなれば「恩恵に浴する世代」として成長してしまったからである。私達は一体「青年という世代」として、何を創造し、次に続いて来るであろう世代に継承出来るのだろう。少くとも私には、この四半世紀に「前の世代」がなし得たほどの、ダイナミックな創造は困難であろうと思われるのだ。しかし生活してゆくことから「下りられない以上、逸れられない以上、私達は何かを、^お「世代」として、為さなくてはならない。私はそれは、飛躍的な創造というより、地道ではあっても、今迄になして来た社会活動を見詰め直す中から、改めてヒューマニズムを基とした「取捨選択」以外に、ないと思っている。我々は一箇の社会人として、その様な過程に積極的に参加しなければならない。それが可能なのは、広範な意味での、社会教育の場を^お外いて他にはないのだから……。 (完)

古川氏ら四氏に表彰状

去る5月25日(日)、岐阜市内の市町村会館で行なわれた本協会の総会の席で、次の四氏のご労苦とその業績を讃えて、協会表彰がされましたのでここに紹介し、今後のますますのご発展とご多幸をお祈りします。

樹神 弘氏 岩村町郷土館の設立担当者として、資料の収集・保存・展示に努力され、県内でも特色ある郷土館として開館・発展するにいたるまで多大の業績を残されました。

山腰 悟氏 私財を投じて飛騨福地自然館および民俗資料館を開設されたばかりでなく、地球の歴史を物語る貴重

な化石保存、ひいては自然保護にも情熱をかたむけられ、卓越した自然科学の資料館としての発展は、学界からも注目されています。

倉野新蔵氏 長年金華山リス村の責任者として、独創的な研究・努力を積み重ねられ、リスの飼育・繁殖法に数々の頭著な業績をあげられ、動物と遊べるリス村の成功は、バイオエ学的な業績として注目されています。

古川庄作氏 岐阜県陶磁器陳列館長として、積極的に資料の収集・保存に努力されたばかりでなく、精力的に古窯

跡の発掘調査を推進され、また日本の焼物「美濃」を出版されるなど、調査・研究活動に奮闘されています。

田端計朶氏に感謝状 //

飛騨の獅子舞に強い関心をもたれ、失なわれゆくこの文化遺産「獅子頭」を収集保存されていた田端計朶氏は、郷土の偉人 故 棚橋源太郎（博物館の父）氏を、広く県民各層に知ってもらうとともに、今後の県下の博物館界の発展を願って、顕彰基金を寄贈下さいました。これをきっかけに、今総会で「棚橋記念賞」も正式発足しました。さらに、田端氏が収集保存された二百五十頭にのぼる「獅子頭」は、失なわれゆく文化遺産の散逸をふせぎ、郷土岐阜県の重要民俗文化財にも指定されるなど、その文化財保存への情熱とご努力には頭がさがります。当協

事務局より

※ 棚橋記念賞顕彰基金募金についてお願い

本誌 29 で紹介されていますように、郷土が生んだ博物館界の偉人、棚橋源太郎先生については、岐阜県人自身があまりにも知らなすぎます。先生の偉業を顕彰するとともに、私たち県内の博物館人自身がふるいたち、勇気づけられ、いっそう博物館学の研修、自己の資質向上に努めることは、当協会の責務であります。本誌 5 ページで紹介しましたように、顕彰規程も正式決定され、いよいよ発足はみたものの、本顕彰のための特別基金財源は貧しく、今後永續発展させるためには、県下の各層（団体個人を問わず）から、多大の賛同をいただいて篤志による多くの方々からのご支援が必要です。詳細については、吉田幸平氏を委員長とする本顕彰募金委員会から出されますが、金銭の多少にかかわらず、多数の方々からのご寄付をお願いします。

会ではこの偉業とも併わせて、謹んで感謝の意を表しました。

第一回棚橋記念賞

故 名和正男氏に教育賞が！

棚橋源太郎先生の偉業を顕彰するとともに、県下の博物館界の発展を願って、今回制定された「棚橋記念賞」は、生前、当協会副会長としてご活躍下さり、その名タレント振り、自然科学、民俗学等広範多彩な視野と博識を発揮して、県内はもとより東海・全日本にわたり、博物館教育事業・活動に多大の業績を残された、故名和正男氏に「教育賞」が授与されました。棚橋先生の写真入り大トロフィーが授与され、今後毎年、各部門で、県下の博物館界に抜群の貢献をされた館及び個人に授与されます。

「岐阜県内博物館等施設要覧」

企 画 中

会員数も増加し、内容的にも変化の著しい時代の流れをふまえ、「要覧」を一新すべく目下企画調査中です。今後ますます社会からも、知的レジャーにふくめるべき博物館等の施設への期待はふくらみ、利用率もふえるにちがひありません。こうした、社会の変化と、協会内の質的量的変化の両面をふまえて、従来みられなかったような新しいタイプの「要覧」にしたいものです。会員諸兄からのご意見、アイデア等、お気づきの点、どんなことでもどンドンお寄せ下さい。協会事務局あるいは、要覧企画係の小野木三郎まで、〒504 各務原市那加雲雀町

84の2。

★各館園の方でも、要覧原稿にそなえて、「館の全景」「正面入口風景」「室内展示風景」「特色ある収藏品」等の白黒写真を撮影しておいてくださるようお願いしておきます。

岐阜県博物館協会 棚橋記念賞顕彰規程

第 1 条 岐阜県博物館協会加入の団体および個人で、下記事項に該当し、博物館界の発展に寄与した場合には、棚橋記念賞を授与する。

第 2 条 棚橋記念賞を次のように区分する。

- ① 展示賞 施設等において、特別企画・展示を行なった場合
- ② 収集賞 施設または個人で、特別コレクションを行ない、文化遺産保存への努力が顕著である場合
- ③ 開設賞 個人または法人で、それぞれの収集品・地域資料を、博物館学的に生かして開館した場合
- ④ 研究賞 本会々員で、博物館学的研究・またはその専門的分野で、学問的価値の高い研究成果をあげた場合
- ⑤ 刊行賞 学術的文献的価値の高い著述を行ない、単行本として刊行した場合
- ⑥ 教育賞 博物館教育サービスにつとめ、岐阜県博物館界の評価を高めた場合

第 3 条 表彰には、楯と賞状を授与する。

付記；シンボルトロフィーは一個とし、本賞は事務局におき、リボンで栄誉をたたえる。

第 4 条 選考については、役員で構成する顕彰委員会で行なう。

第 5 条 博物館人として、ふさわしくない行為があったときは、顕彰委員会の決議により栄誉を剥奪する。

第 6 条 本顕彰にかかる費用は、特別基金をもってこれにあてる。

付 則

この規程は、昭和50年4月1日から施行する。

図書案内

博物館学研究会編・イコム国際委員会刊

学芸員 研究シリーズ (4)

— その役割と訓練 —

イコム（国際博物館会議）で発行される数多くの文献の中からの翻訳を中心に編集されたもので、学芸員の活動や性格の理念にふれる関係者必読の書で、学芸員論・博物館教育職員・博物館利用者・博物館教育の総括目的と問題・教育プログラムの種類・博物館教育者の養成などの内容が含まれている。日本で、最も忘れられ、しかも博物館を生きて機能させる核たるべき学芸員をどうするか、この根本課題をみつめるためにも、ぜひご必携されんことを。

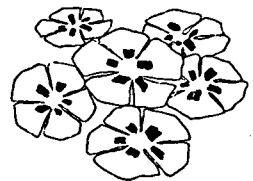
頒価 800 円（送料別）注文先は、日本博物館協会へ。

岐阜県博物館に

棚橋源太郎先生顕彰展示を！

当協会の新事業として棚橋記念賞も発足しました。来年度は、東海博物館連絡協議会の総会が本県で開催され、オープン間近の岐阜県博物館を中心に目下運営内容が検討されています。

当協会ではこれを機会に、県下博物館界の中核ともなるべき「岐阜県博物館」内に、この郷土が生んだ偉大な博物館の父「棚橋源太郎先生」について、その業績の数々を広く顕彰する展示が当然あるべきと考えます。そのための提言・資料その他ありましたら、どんどん準備室当局へ提出・要望しましょう。



「学芸技術員」資格付与規程

(目 的)

第 1 条 岐阜県博物館界の資質向上と発展をめざし、「博物館学」の普及のために、当協会は認定講習会を開講し、役員会の承認を得たものには、「学芸技術員」の認定書を附与し、その資格を授与する。

(受講資格)

第 2 条 学歴は問わないが、認定講習の受講に必要な学力を有する者で、次の各項に該当すること。

- ① 当協会に登録された施設の勤務員で、勤務歴3年以上のものは、所属長の推せんにより受講資格を得る。
- ② 当協会個人会員は、協会主催の博物館学セミナーに12回以上参加し、役員会の承認を得て受講資格を得る。
- ③ 県外からの希望者は、役員会において、その受講許可を検討する。
付記； 資格が急務であると認められる場合は、役員会の決定により、受講資格を与える場合がある。

(効 力)

第 3 条 「学芸技術員」の資格は、本協会に登録された施設等および本協会内においてのみ有効である。

(認定資格の喪失)

第 4 条 博物館人として、品位を欠く行為またはふさわしくない行為をしたときは、役員会の決定によりその資格を停止する。

(認定講習法)

第 5 条 認定講習会では、次の課目を開講し、詳細については別に定める。

博物館学． 社会教育概論． 史学概論（文化史含む）． 自然史概論． 民俗学．
展示技術． 資料収集整理保存． 視聴覚教育． その他学芸員資格に準ずる科目。

第 6 条 本協会の「学芸技術員」で、より資質向上のため、文部省令の「学芸員」国家試験および「学芸員講習会」等に参加するものには、本人の申し出により、当協会の特別推せん状を発行する。

第 7 条 受講希望者は、申込書（履歴書・所属長の推せん書をそえて）を本協会事務局へ提出する。

付記； 各用紙は事務局へ請求すること。

付 則

この規程は、昭和50年度実施の講習会から効力を有する。

「各務原市の歴史」発刊さる

各務原市は、市制発足十周年を記念して、市の歴史を概説した「各務原市の歴史」発刊を企画し、その著作を岐阜女子商業高校教諭 小林義徳氏（市文化財審議委員）に託され、このたび写真を多くとり入れた、読み易い通史として発刊された。第一章「各務原のあけぼの」から「美濃国各務郡のなりたち」「武士の世の郷土」「小領主に分属する村々」「伸びゆく各務原」の5章からなり、巻末に市の文化財一覧表もある。

発行・各務原市教育委員会。大野書店（各務原市那加門前町2、TEL<0583>82-0031で取扱っている）ので、入手希望者は、上記書店へ問い合わせられたい。

秋神森の仲間会員を募集

山村資料室をもつ秋神温泉旅館（当協会々員）では、秋神の自然と生活と歴史風土に関心をもって下さる方々を対象に、「秋神森の仲間」の会員を募集中。会員には、秋神便りが年3～4回郵送されるし、秋神温泉主催の行事に参加でき、宿泊費が割引される他、宿泊シールをためると無料招待の恩典が与えられる。秋神地方の生の自然を学習材料に、自然に親しみ、秋神の歴史風土を肌で感じとってもらおうという計画。会員申込みは、住所・氏名・年令・性別・電話番号を明記し、終身会費1,500円をそえて申込むこと。〒509-33 大野郡朝日村胡桃島、秋神温泉 小林繁あて。

特別展「瑞浪化石のすべて」開催中

入場者数11万人を突破した瑞浪市化石博物館では、開館一周年と館報第一号の発行を記念して、同館収蔵の10万点をこす標本の中から厳選して特別展「瑞浪化石のすべて」を開催中。

期日は、5月20日～6月15日。

なお従来と休館日が変更され、今春4月1日から 毎週 月曜日

但し祝日と重なった場合はその翌日

資料整理日 毎月末日

但し月末が月曜日の場合はその翌日

祝日は開館 年末年始は従来通り、

以上となりました。

渡辺卓郎瑞浪市化石博物館長退職

県内の自然史系博物館として、貴重な存在となった瑞浪市化石博物館長の渡辺卓郎氏は、初代館長として、立派な社会教育機関としての博物館づくりに情熱をかたむけられ、当協会発展にもご尽力下さいましたが、この4月30日付をもってご退職されました。ますますのご多幸をお祈りしつつ、今後も博物館界にご教示・ご助言下さることをお願いします。

国府町に郷土館・民俗館・郷土植物園

国宝安国寺境内に昭和49年度内に開館。郷土館には考古資料等約100点、民俗館に生活文化遺産約1000点、郷土植物園に約430種の植物がある。月～金曜の平日に休館。土・日曜・祝祭日に開館（9時～17時）大人200円、小中学生100円、30人以上1割引。

岐阜天文台 第6期 天文教室の案内

五年前より、小学生から一般までを対象として、天体観測の体験を中心に、多くの人々に「科学することの楽しみ」を培ってきた「天文教室」が、本年度も下記の要項で実施されます。

内容 6月太陽の科学 7月星のいろいろ

8月夏の星座と天の川 9月望遠鏡の話

10月秋の星座の物語 11月爆発する宇宙

12月火星の話 S 51年1月今年の天象

2月冬の星座 3月天文学の歩み

4月春の星座と土星 5月惑星発見物語

以上内容の程度を変えて小・中学生の部、

6月 天体望遠鏡と取扱いかた

7月 小型カメラによる天体撮影法

8月 天体観測と時刻（星図と星表）

9月 太陽の観測〔以下略〕

以上高校生と一般の部。

実施日、第1土曜 中学生の部

第2土曜 小学生の部

第3土曜 高校生と一般の部

会費、1回につき350円（学習教材費含）

詳細および申込みは、〒501-61 羽島郡柳津町高桑 岐阜天文台 TEL<0582>79-1353
or 62-3357 へ 直接してください。

アマゾンのチョウ展へどうぞ！

名和昆虫博物館では、中日新聞社との共催で上記特別展を実施中。併催はニューギニアのこん虫。モンキーセンターが派遣したアマゾンの猿類学術調査隊の一行が採集したアマゾンのチョウ100種500点と、ニューギニアのこん虫類が展示され、昭和50年4月15日～8月31日までのロングラン。



県教委「文教施設めぐり」発刊

県教委では、「文教施設めぐり」第二版を発刊し、その中で県内の博物館および類似施設を紹介している。地域別のモデルコースを設け、学校、社会教育関係各種施設、史跡、名勝などを紹介しているが、その中で、岐阜北西コース

（岐阜から本巣・揖斐へ）で「揖斐川町郷土資料館」岐阜北コース（岐阜から山県へ）で「岐阜市児童科学館」「名和昆虫研究所」「岐阜城」飛騨コース（高山から吉城・大野へ）で「飛騨民俗村」「神岡町郷土館」「白川合掌村」といった具合で、ここには公立のものが主体で紹介されている。今後は、法人立や私立のものでも、郷土をよりよく知り、一般大衆の知的好奇心、生涯学習の場として応えようと、細々とでも努力苦心されている、多くの県内の諸機関・施設等を含めて紹介してほしいと考えられる。

なお、同「文教施設めぐり」（地図付案内書）入手希望の方は、直接県教委社会教育課まで問合わせられたい。

編集後記

★インドゾウの背にゆられて、インド・アッサムの川と湖と草原と森との自然域めぐりで、滅び行く野生動物の現実をこの目で見てきました。今こそ、ひとりひとりの人間が、自分の足をのせるこの郷土の大地を、自然を、さらに、その自然風土の中で展開されてきた人間の歩みを、歴史を文化を、つまり、「ヒトとは何であるか」をじっくり考え直してみなくてはならないと痛感しました。そのためにも、万人に応える自然と人文との、あらゆる分野の博物館の充実、これこそが、現代社会に求められる何よりも優先権をもった施策であることを思い知らされました。

★棚橋賞が設定されました。関係者の資質向上・研修をめざして「学芸技術員講習会」の構想も歩み出しました。来年度は東博大会も本県で開催。岐阜協も本年は一大飛躍の年です。本誌の方も更に発展を！！

★そのためにも、会員諸氏からの、本誌へのご意見・ご要望の多々寄せられんことを。ご投稿も期待しています。（小野木）